

琵琶湖に眠る滋賀県の歴史に触れてみよう!

水中遺跡の謎と魅力

プロローグ

琵琶湖は日本最大の湖です。

有史以前から、人々は琵琶湖と共に暮らし、独自の文化と歴史を形成してきました。

水中遺跡とは、地盤沈下や水位の上昇、船舶の沈没、祭祀等によって形成された水中にある遺跡です。

琵琶湖の底や水辺には、人々の生活の痕跡が、水中遺跡として数多く眠っています。

琵琶湖に眠る水中遺跡の分布

琵琶湖の水中遺跡の特色

水中遺跡は、琵琶湖を有する滋賀県の特徴ある埋蔵文化財です。

琵琶湖には現在まで78か所の水中遺跡が確認されており、その数は沖縄県に次いで、日本で2番目の多さを誇ります。淡水にある水中遺跡の数としては日本一です。

琵琶湖の水中遺跡には、集落跡や湖上交通の拠点であったことを示す遺跡などがあり、多様な遺跡が残されている点において、国内でも例を見ないことが特色です。



あわづ こてい いせき
粟津湖底遺跡

日本最大の淡水の貝塚です。なかでも第3貝塚は、貝類や獣骨、植物が発掘調査によって大量に出土し、縄文時代中期の食生活の実態が明らかになりました。



からはし いせき
唐橋遺跡

現在の瀬田の唐橋の下流約80m付近の瀬田川底から橋脚跡が発見されました。672年の壬申の乱の舞台となった勢多橋のものであると考えられています。

飛鳥時代から何度も橋が架け替えられており、土木技術の歴史を今に伝える重要な遺跡です。



はり え はま いせき
針江浜遺跡

竪穴住居跡や掘立柱建物跡など、弥生時代の集落跡がほぼそのままの状態で見られました。

地震による液状化現象の痕跡も検出されています。文献が残る以前の災害を今に伝える遺跡です。



からすま ざき いせき
烏丸崎遺跡

烏丸半島のほぼ全域に広がります。縄文時代から平安時代にわたる複合遺跡です。弥生時代の玉作り工房跡や、お墓である方形周溝墓跡が発見されました。



しお っ こう いせき
塩津港遺跡

発掘調査によって、平安時代から鎌倉時代の港跡と神社跡が見つかりました。港は、湖上交通の北の玄関口として栄え、神社では、様々な祭祀や儀式が行われていたことがわかりました。



つづら おざき こてい いせき
葛籠尾崎湖底遺跡

縄文時代から中世の完形の土器が数多く発見されています（写真は長浜市提供）。これらの土器は、水深約70mと深い場所に沈んでおり、現在も謎の多い遺跡です。また、土器には琵琶湖で生成される鉄分（湖成鉄）が付着していることから、湖底に埋まり切らずに沈んでいると推定されています。



ちようめい じ こてい いせき
長命寺湖底遺跡

長命寺山の山裾の湖底から、縄文時代の丸木舟や舟を漕ぎ進めるための櫂(かい)が出土しました。関東地方や中・四国地方の影響を受けた縄文土器のほか木材の伐採・加工用の石斧、調理用の磨石などの石器が出土しました。

琵琶湖の水中遺跡

1 山ノ下遺跡	大津市	19 相撲湖底遺跡	長浜市	39 沖島赤鼻遺跡	近江八幡市	59 三矢千軒遺跡	高島市
2 浮御堂遺跡	大津市	20 早崎遺跡	長浜市	40 三香院遺跡	近江八幡市	60 白浜遺跡	高島市
3 坂本城跡	大津市	21 今西湖岸遺跡	長浜市	41 沖島赤鼻湖底遺跡	近江八幡市	61 富坂遺跡	高島市
4 唐崎遺跡	大津市	22 延勝寺湖底遺跡	長浜市	42 宮ヶ浜湖底遺跡	近江八幡市	62 伝三矢千軒遺跡	高島市
5 大津城跡	大津市	23 余呉川口遺跡	長浜市	43 牧湖岸遺跡	近江八幡市	63 永田浜遺跡	高島市
6 膳所城遺跡	大津市	24 尾上遺跡	長浜市	44 大房湖岸遺跡	近江八幡市	64 萩之浜北遺跡	高島市
7 膳所湖底遺跡	大津市	25 尾上城遺跡	長浜市	45 新畑湖岸遺跡	近江八幡市	65 萩之浜南遺跡	高島市
8 粟津湖底遺跡	大津市	26 尾上浜遺跡	長浜市	46 佐波江湖岸遺跡	近江八幡市	66 森浜遺跡	高島市
9 蛭谷遺跡	大津市	27 葛籠尾崎湖底遺跡	長浜市	47 矢橋湖底遺跡	草津市	67 針江浜遺跡	高島市
10 大江湖底遺跡	大津市	28 竹生島寺遺跡	長浜市	48 矢橋港跡	草津市	68 深溝遺跡	高島市
11 唐橋遺跡	大津市	29 阿曾津千軒遺跡	長浜市	49 北山田湖底遺跡	草津市	69 深溝浜遺跡	高島市
12 北小松湖岸遺跡	大津市	30 西野水道跡	長浜市	50 北菅遺跡	草津市	70 外ヶ浜遺跡	高島市
13 矢倉川遺跡	彦根市	31 片山湖底遺跡	長浜市	51 津田江湖底遺跡	草津市	71 源氏浜遺跡	高島市
14 多景島遺跡	彦根市	32 向山遺跡	長浜市	52 烏丸崎遺跡	草津市	72 栗見出在家遺跡	東近江市
15 長浜城遺跡	長浜市	33 寺ヶ浦遺跡	長浜市	53 志那湖底遺跡	草津市	73 朝妻湊跡遺跡	米原市
16 豊公園湖岸遺跡	長浜市	34 塩津港遺跡	長浜市	54 赤野井湾湖底遺跡	守山市	74 尚江千軒遺跡	米原市
17 平方湖岸遺跡	長浜市	35 諸川湖底A遺跡	長浜市	55 小津浜遺跡	守山市	75 磯湖底遺跡	米原市
18 下坂湖岸遺跡	長浜市	36 長命寺湖底遺跡	近江八幡市	56 木浜湖底遺跡	守山市	76 磯湖岸遺跡	米原市
		37 沖島赤鼻西遺跡	近江八幡市	57 西浜遺跡	高島市	77 土川湖底遺跡	米原市
		38 沖島湖底遺跡	近江八幡市	58 浜分浜遺跡	高島市	78 世継遺跡	米原市

※番号赤字は、このパンフレットで取り上げた遺跡

水中遺跡からわかる! ~湖上交通編~

水中遺跡の調査により、人々が琵琶湖とどのようにかかわりながら暮らしてきたかが明らかになってきました。

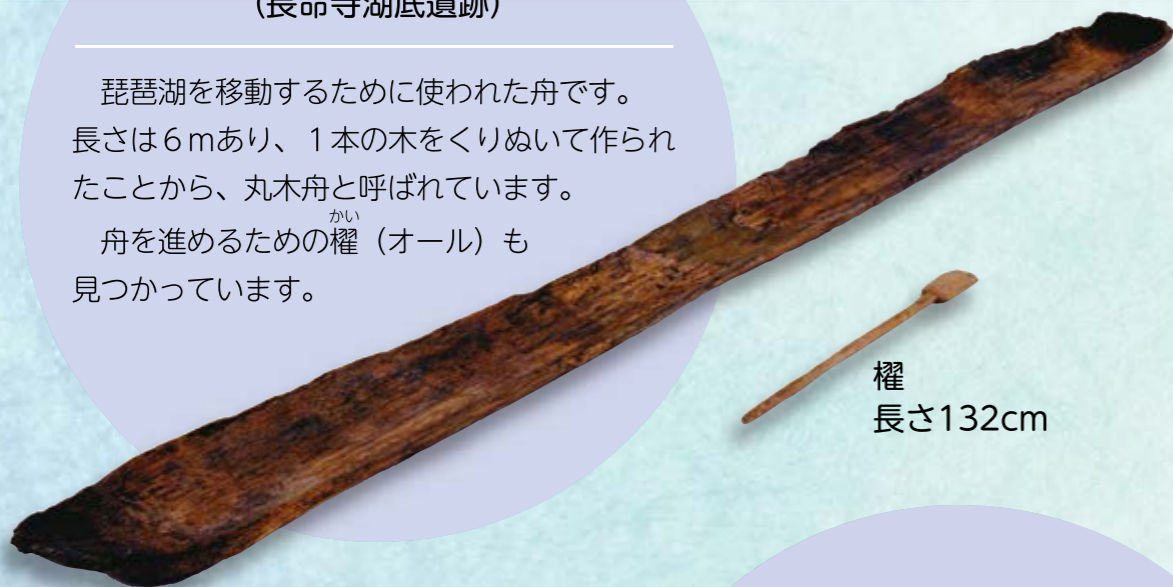
ここでは、湖という環境だからこそ残された遺構や遺物について、まずは湖上交通にかかわるものから紹介していきます。

縄文時代の丸木舟と櫂

(長命寺湖底遺跡)

琵琶湖を移動するために使われた舟です。長さは6mあり、1本の木をくりぬいて作られたことから、丸木舟と呼ばれています。

舟を進めるための櫂(かい)も見つかっています。



櫂
長さ132cm

運び損ねた瓦

(赤野井湾湖底遺跡)

飛鳥時代に作られた瓦が、湖底から大量に発見されました。

瓦には使用痕(風化痕)がなく、製作の特徴がおなじものばかりであることから、生産地(瓦工房)から舟で運ばれる途中に落としてしまったようです。



起請文木札

長さ142cm

(塩津港遺跡)

起請文は人と人が約束する時に神様に誓いを立てた文書です。

平安時代の左写真の木札には荷物を1つも失うことなく運ぶという誓いと、無くした時はその罰を受けますと書かれています。



模型船

長さ17.3cm

(塩津港遺跡)

平安時代の祭祀用の精巧なミニチュア品です。

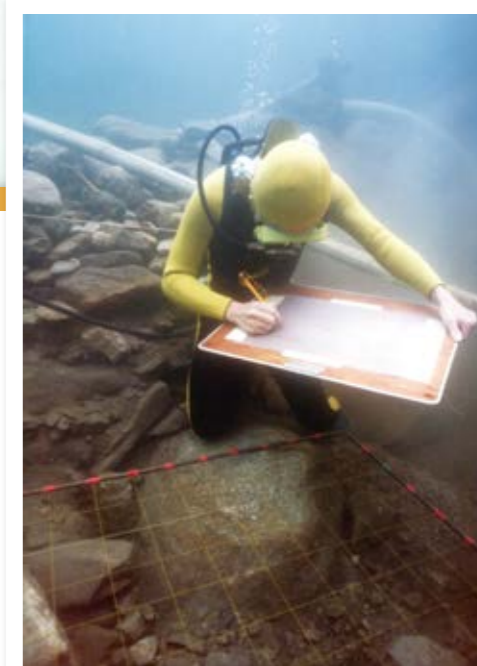
水中遺跡は、 どうやって発掘調査するの…?

琵琶湖の湖底に眠る水中遺跡はどのように発掘調査されたのでしょうか。発掘調査の方法をいくつか紹介していきます。

1つ目は水に潜って行う方法です。湖底に水を勢いよく吹きつけて土を掘った後、綺麗な水を入れた透明の箱を押し付けて、土の様子を観察します。また、船の上で引き揚げた土砂から遺物を探します。この方法で遺跡が有るか無いかを調べます。

2つ目は湖の底を陸地にする方法です。調査地の周りに堤防をつくり、その中の水を抜きます。そして、陸上と同じように土を掘り、どのような遺構や遺物があるのか記録し、遺跡の内容を明らかにしていきます。

3つ目は近年、国内の水中調査においても使われているデジタル技術を用いる方法です。水の中で数多くの写真を撮影し、遺跡の3Dモデルを作る「フォトグラメトリ」の技術が使われることがあります。最新の技術を使うことで、今までより短い時間で調査ができるようになりました。



潜水調査 (多景島遺跡)

水中遺跡からわかる ～食べ物編～

水中遺跡では、水中という環境から、陸上では残らないような遺物が水によって守られ、良好な状態で保存されています。

琵琶湖では、みずうみとともに暮らしてきた人々の食生活が明らかになりました。



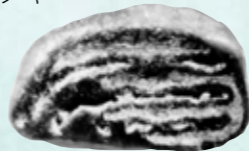
縄文時代の貝塚 (粟津湖底遺跡)

貝塚は、縄文人が役目の終わったものを持って行って感謝する場です。

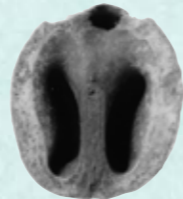
この貝塚から発見された多様な遺物が縄文人の食生活の解明につながりました。



▲コトチノキ



▲コイ咽頭歯



▲オニグルミ



▲アユ (尾の骨)



▲スッポン頭蓋骨



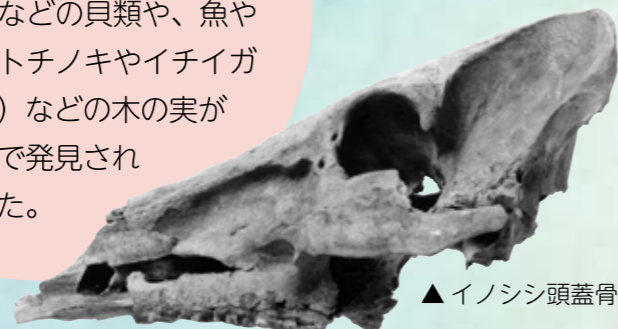
▲スッポン甲羅



▲イチイガシ



▲ホンモロコ(歯)



▲イノシシ頭蓋骨

粟津湖底遺跡の 貝塚から発見された 動物の骨など

セタジミなどの貝類や、魚や鳥、獣の骨、トチノキやイチイガシ(どんぐり)などの木の実が良好な状態で発見されました。

弥生土器 (小津浜遺跡)

高さ80cmの大型の壺です。壺は、食べ物の貯蔵に使われていました。土器の表面には、網籠でおおわれていた痕跡が残っています。



弥生時代 古墳時代の木製鋤 (赤野井湾湖底遺跡)

弥生時代から古墳時代の木製の農具がたくさん出土しました。

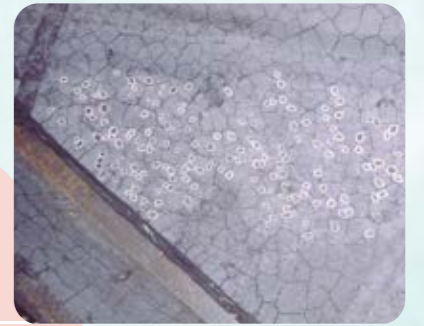
この地域には水田が営まれていたと考えられます。



古墳時代の 水田跡 (針江浜遺跡)

地面に開いた無数の穴は、当時の人々の足跡です。

水田の水路と推定される溝の跡も見つかっています。



琵琶湖の水中遺跡、 発見のきっかけは…?

明治41(1908)年、長野県諏訪湖で曾根遺跡が発見されました。これが日本における最初の水中遺跡の発見です。

続く発見は、大正13(1924)年の琵琶湖での出来事です。現在の滋賀県長浜市湖北町の葛籠尾崎沖で、イサザ漁をしていた地元の漁師によって、縄文土器や弥生土器が引き揚げられました。その後も、縄文時代から平安時代の約200点の土器が湖底から引き揚げられ、琵琶湖の水中遺跡の存在が明らかとなりました。

この葛籠尾崎湖底遺跡では、昭和34(1959)年に琵琶湖総合調査が実施されました。この際に、地元湖北町尾上出身の考古学者・小江慶雄氏によって、葛籠尾崎湖底遺跡の調査・研究が行われました。小江氏による調査をきっかけに、現在まで継続的な調査・研究が行われています。

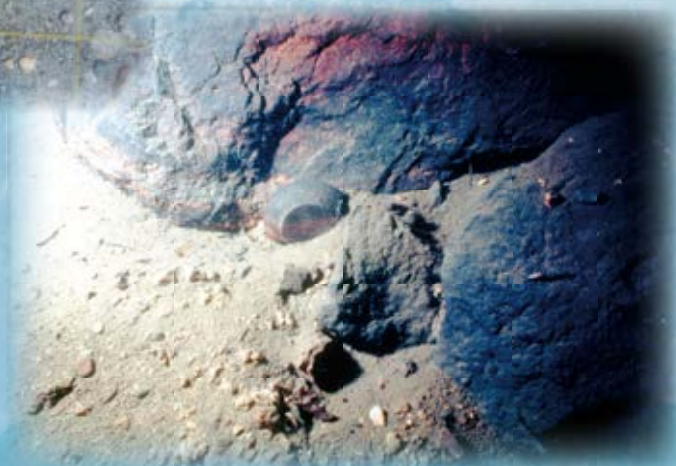
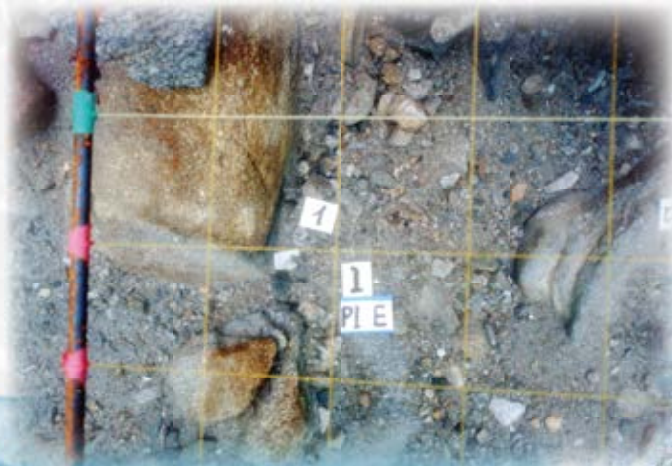
また、滋賀県内では、昭和48(1973)年以降、琵琶湖総合開発事業に伴い、数多くの水中遺跡の調査が行われました。葛籠尾崎湖底遺跡は、まさに水中考古学調査・研究の先駆けとなった遺跡です。



竹生島上空から見た葛籠尾崎沖



葛籠尾崎の湖底に沈んだ土器
(写真は長浜市提供)



エピローグ

水中遺跡は、琵琶湖とともに歩んできた人々の暮らしを生き生きと物語っています。

しかし、なぜ湖底にあるのか、どのような原因、あるいは過程を経て水中遺跡となったのかなど、未だ解明されていないことも多く、謎とロマンに包まれています。

水中遺跡は、琵琶湖を有する滋賀県ならではの魅力ある文化遺産です。

「滋賀の宝」を未来へと伝えていきましょう。

滋賀県文化財保護課

令和6年10月

Tel : 077-528-4674

E-mail : kinenbutsu@pref.shiga.lg.jp